



# 千葉労働新聞

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)  
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 043 (222) 7207 番

92.9.17 No.3659

# 千葉支社 勤務扱いで? カラオケ大会!

## 会社は

## 輸送業務の

## 原点に立て!

九月九日、勤務として千葉支社主催の「喉自慢大会」が行われていたことが明らかになった。

大半の社員が勤務に従事し、額に汗しているさなか、マイクを握りカラオケにこーじるなどということが、「勤務」と言えるものなのであるか!?

JRは、日頃「勤務の厳正」をあらゆる場で口にしなが、一方では平然と「勤務中」に、このようなことを行っているのである。

そして、この「喉自慢大会」には、かの前千葉転区長・土岐千葉地区指導センター所長も参加し民謡を歌ったそうである。

社員を指導する立場にありながら、率先して、「勤務中」に歌う神経には、驚きを禁じえない。

又、この「喉自慢」のために、年休抑制をした事実を断じて許せるものではない!

この「喉自慢」が千葉支社の「企画」である以上、それ相応の検討の上でGOサインを出したはずである。

誰も疑義を挟まなかったとすれば、支社内のチェック機能は、完全に麻痺しているとした考えられない。

言行不一致としか言いようのない、このような発想がまかり通る千葉支社であるから、前後逆になるような列車ダイヤを設定したりなどということが発生するのである。

又、本来業務よりも、「小集団活動」「提案」「意見発表会」等の方に比重が

かかり、それが評価されるというところに、今日大変な問題が内包されている。内実、自主的なものとしている「小集団活動」などは、「活動補助金」が出るため、会議等を行ったこととして、それを「飲み代」としていることなど、氷山の一角にすぎない。

JRの精神主義が生み落とした産物は、確実に全体を蝕んでいっているのだ。こうした「腐食の構造」を、会社側が施策として奨励しているのであるから救いようがない。

JR千葉支社の猛省を則し、輸送業務の原点に立てと警鐘を鳴らすものである。

## 部落の解放を労働者の解放なし並 九・二三集会、四五〇が決集! 杉

九・一三「部落解放東日本労働者集会」は、会場の杉並産業商工会館のホールを四五〇名の参加者で埋め尽くし、熱気溢れる研究会として大成功をかちとった。

今日、日本帝国主義の強引な侵略戦争への突入は、排外主義と内

向かっては差別と分断支配の攻撃を限りなく強化させてきている中で、これと真剣に闘わずして真の反戦闘争も侵略阻止もありえないことを改めて各々がしっかりと確認した。

## PKO 派兵許すな

## 伊丹(兵)現地で 完結式典「弾劾 に決起!



(写真) 緑ヶ丘駐屯地において、中部方面隊總監あてに請願書を渡す。(矢流印) 手前は、現地闘争に決起した交流センターのデモ参加者。